

松虫タイムス

千葉大学・園芸学部・応用昆虫学研究室，環境生物学研究室，応用動物昆虫学研究室 同窓会

復刊 第1号 2002.3.1 発行 <http://www.h.chiba-u.ac.jp/insect/matsumushi/>

「松虫会」活動再開，会長に左近司氏

松虫タイムス

平成 13 年 11 月 3 日，戸定祭の中日に松虫会総会が行われ，新しい会則と新しい運営方法が承認されました。これによりしばらく途絶えていた活動の再開と相成りました。

総会は午後 4 時から緑風会館 2 階ラウンジで行われ，30 名の出席がありました。会に先立ち，研究室の天野 洋教授から挨拶があり，議長として大川義清氏が選出されました。

大川議長のもと，新会則が発表され，これが承認されました。そして会則に定められた幹事が発表され，承認されました。幹事の方々は以下の通りです。

- 野村健一先生 卒業生 桐原 重樹氏 本山 直樹氏
- 真梶徳純先生 卒業生 波多野連平氏 井上 大成氏
- 天野 洋先生 卒業生 小池 朗氏
- 学内幹事 野村 昌史
- 会計監査 松葉 光豊氏



松虫会会長につきましては，臨時幹事会により 左近司 昌弘氏を推薦したい旨報告があり，満場一致で承認されました。

その後，今後の運営についての報告があり，終了しました。次回は平成 15 年の戸定祭期間時に総会を行う予定です。

生協食堂にて懇親会が行われ，現役学生も多数参加して，楽しい時を過ごしました。その後，研究室に戻って，または松戸駅周辺にて 2 次会等が開かれました。

松虫会の会長を引き受けるにあたって

松虫タイムス

左近司 昌弘



平成 13 年 11 月 3 日，千葉大学園芸学部での松虫会の総会で幹事会の推薦を受け総会で承認されて，会長に就任することになってしまい，会長としての挨拶文を書けと言われて，あれこれ考えている内に旬日を経ってしまった。挨拶などより何故総会を開き会則を決め幹事を選んだかの経緯を述べて置いた方がより良いと考えて書くことにした。少々昔を振り返りながら若い世代の人に理解を得，ともに同窓の友であることを認識してもらうことが，まず，大切ではないかと思っている。何しろ，昭和 28 年の新制大学第 1 回生から故野村先生，故真梶先生そして天野先生と 3 世代，約 50 回生，400 名になんなんとする広がりがあるのだから。

松虫タイムス創刊号は，昭和 32 年 1 月 3 日の先生のお宅での新年会で配られたもので，チャチなガリ版刷りである。（松虫会 20 周年特集号に再現されている）その後，昭和 33 年の台風 22 号で，お宅近くの水道塔の堤防が決壊し床上浸水の被害に合われた時，在京の卒業生は情報のなさと後日お知らせを頂き，これではならじと同窓会を松虫会として，縦横の連絡とお互いの仕事のプラスになるようにして行きたいとして，翌春の新年会でこのことを決定，会の名前を“松虫会”としたように記憶している。

当時から幹事は各年代を網羅する選出方法を採用、なるべく色々な人にその任に携わってもらって幹事の苦勞を知り、以後も協力人になってもらうことと若返りを図る意図だった。

小生はこの当初から昭和41年ころまで東京に在住していたのでお手伝いをさせて頂いた。それ以降は山田先輩にお願いし、引退？皆様に任せした。

その後は故野村先生の退官、受賞祝賀会には寄せて頂いた程度であった。平成元年山田先輩が登山中に滑落して亡くなられてからは、この会も休眠期に入ったような一と言うのは小生に幹事をさせると決まったとか、情報はあったものの正式な伝達ではないので行動を起こさなかった為かも知れない。又、故真梶先生の退官された時の会合で松虫会の名称の由来を話した記憶がある程だから自覚がなかったのだろう。その翌年の平成9年村井先輩から“同年輩の人が集まって一タを過ごしませんか”との呼びかけがあって3, 4, 5回生と万造寺(旧姓西園)さんの6名が楽しい夕べを過ごした。その頃、年賀状をやり取りしている会員からしきりに“松虫会はどうしてるんですか”との賀状を何通ももらって気にかけてもいた。平成11年桐原氏とゴルフを共にし、又、ある会合で大川氏と会った時“松虫会として正式でなくても、会を持ちましょうよ”とハッパをかけられ、何かをやらなければならなくなった。

この年の9月、個人的に賀状を交換していた14回生までで関東に居住している人を対象に“名月を愛でる会”を開催した。その席で“松虫会とは、どうあるべきか”との提言があり、翌年草津に一泊しながら故野村先生の教え子へのアンケートを基に議論し、“松虫会は学校を中心に活動をし、その他は各地、各年代、等など色いろの分科会的なものがあっても良くないかとの結論になった。

この結論を持って学校側の天野先生と野村(昌)先生に本山先生、桐原氏と小生が松戸でお会いし話し合いを持って、2年おきに総会を学校で開催しようという運びになった。そして今年の“名月を愛でる会”に野村先生の出席をいただいて、11月の総会に繋げた次第である。

このように会がもたつたのは、会にはっきりした会則がなかったからだと考えて今回の提案をした訳であります。これからはこの会則にも明記したように、2年に一度総会を開き、幹事の改選を行い、少しずつ若返りを行いながら、名簿の発行、会員の消息、新卒業生の就職先の紹介、研究室の活動状況、学校の動き等必要と思われる事の連絡をしたいと思っている。

以上、経緯まで書いてしまいましたので長文になってしまいましたが、ご理解頂けましたでしょうか、この松虫会が“老いも若きも”の皆様から支持されるよう頑張って参りたいと思いますので、ご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

幹事のプロフィール

松虫タイムス

総会で承認された幹事の方々を紹介します。幹事の方々は皆様のいろいろな情報を集めております。異動や近況などありましたら幹事の方にもお知らせいただくと幸いです。

●野村健一先生 卒業生

桐原 重樹氏・・・1961(S36)年卒、第9回生

本山 直樹氏・・・1966(S41)年卒、第14回生

●真梶徳純先生 卒業生

波多野連平氏・・・1981(S56)年卒、真梶先生 第1期生

井上 大成氏・・・1986(S61)年卒

●天野 洋先生 卒業生

小池 朗氏・・・1995年卒、応用動物昆虫学研究室 第1期生

●学内幹事

野村 昌史・・・1990年より研究室教官、ちなみに故野村先生とは血縁関係にありません

○会計監査

松葉 光豊氏・・・1956(S31)年卒、第4回生



野村健一先生の奥様のご逝去

故野村健一先生の奥様ミ子様が平成14年1月にご逝去されました。お通夜および告別式が北松戸のライフケア常磐会堂で行われ、松虫会から献花を行い会員の方々も多数参列されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

奥様にまつわる思い出がございましたらどうぞお寄せ下さい。紹介させていただきたいと思います。

松虫会会報復刊によせて

松虫タイムス

応用動物昆虫学研究室
教授 天野 洋

情報化時代の到来・深化とともに、私達の日常生活は一層充実すると予測されて来ましたが、また現在でも予想する人が多くいます。確かに、携帯電話やパーソナルコンピューターの急速な普及は私達に便利さを提供してくれました。しかし、果たして生活に充実感をもたらしたのでしょうか。松虫会を初めとする同窓会の活動は、どちらかと言うと、個々の情報が寸断された「デジタル」な世界ではなく、古めかしいかも知れませんが、繋がりのある「アナログ」の世界かも知れません。

デジタル世代の割合が年々増加する松虫会は、会員 350 名を超える陣容になりました。初期デジタル世代でもある研究室現教官の、寸断されつつある思考回路に渴を入れて下さったのは「アナログ世代」の松虫会諸先輩方でありました。去る 11 月 3 日には私達のルーツである松戸キャンパスで久しぶりの松虫会総会が持たれました。そして現会報では、極めてアナログ的な発想に基づく「住所録」が発行されます。

松虫会の各位におかれましては、ご多忙の中でそれぞれにご活躍と幸いです。その中で、ちょっとした時間にでも松虫会を思い出して頂き、本研究室のHPや今回発行されました住所録などを手がかりに、お互いのルーツを確認する旅に出ただけであれば幸いです。

おしらせ

松虫タイムス

平成 14 年 2 月 23 日に松戸で幹事会が開かれました。その席でこれからの活動方針が示されました。「松虫タイムス」は年に 2 回 - 1 月(今回は遅くなりましたが)と 8 月 - 発行します。次回は研究室の動向などを中心にお送りいたします。皆様方の情報も載せたいと思いますので、何かありましたら研究室や幹事宛に情報をお寄せ下さい。電子メールでも結構です。野村のメールは mnomura@midori.h.chiba-u.ac.jp です。また、皆さんが撮った写真なども可能ならば掲載する予定です。是非お送り下さい。インターネットで配信希望の方は次回から PDF での配信も試験的にありますが、軌道に乗るまでは期待しないでください。

今回、郵便振込用紙を同封いたしました。今年度の会費は 2000 円で、以後年会費 1000 円といたします。今は資金がない状況ですので、何卒ご協力をお願いいたします。昨年の総会時にお支払いいただいた方にも同封いたしました。今後の会費納入にお使い下さい。

研究室のホームページ内に松虫会のページも立ち上げてあります。表紙にも書きましたが

<http://www.h.chiba-u.ac.jp/insect/matsumushi/>

です。アクセスしてみてください。更新もしていきたいです。今後は軌道に乗ればメイリングリストや掲示板なども運用できればと思っています……。ご希望などありましたら野村までお寄せ下さい。

2 月 18 日に卒論発表会が終わり、研究室は落ち着いてきました。詳細は次号で紹介いたしますが、博士 1 名、修士 3 名、学部 5 名の学生が論文を提出いたしました。14 年度は 6 人(男 1, 女 5)の卒研究生を迎えて既に実験をはじめている人もいます。

修士の滝 久智君の研究が 3 月 21 日(祝)に行われる「園芸学部の学生による公開研究発表会」で紹介されることになりました(詳しくはホームページなどで)。タイトルは「害虫の飛翔の意味を探る - ガの長距離移動の可能性について -」です。お近くにお住まいの方はいらしてください。

千葉大学園芸学部 松虫会会則

第1章 総則

第1条 本会は千葉大学園芸学部松虫会と称する。

第2条 本会は千葉大学園芸学部応用昆虫学研究室・環境生物学研究室・応用動物昆虫学研究室の同窓会組織として会員および在学学生をサポートすることを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 名簿および会報などの発行
2. 総会の開催
3. その他必要と認められる事業

第4条 本会の事務局は千葉大学園芸学部応用動物昆虫学研究室とする。

第2章 会員

第5条 本会の会員は千葉大学園芸学部 応用昆虫学研究室、環境生物学研究室、応用動物昆虫学研究室を卒業した者、卒業見込みの者および幹事会が認めた関係者とする。

2. 会員は自らの連絡先や勤務先等に変更があった場合は速やかに事務局に連絡すること。
3. 会費の納入なき者には発行される会報や名簿等は送付しない。

第3章 幹事

第6条 幹事は会員から推薦され、総会で承認された者とする。

第7条 幹事の選出区分は故野村健一教授の卒業生(1～28期)から2名、故真梶徳純教授の卒業生(29～45期)から2名、天野 洋教授卒業生(46期～)から1名、大学から1名の選出とする。以後天野教授卒業生については卒業生10年につき1名を加えることとする。

第8条 会長は幹事の互選または幹事会の推薦する者とする。但し、幹事会の推薦により会長となる者は総会での了承を得なければならない。

第9条 会長および幹事の任期は2年とし再任を妨げない。

第10条 幹事は必要に応じて幹事会を開催することができる。

第4章 集会

第11条 総会は平成13年から隔年で開催し、会の運営を決定する。

第12条 総会以外に各地域ごと、各クラスごと、各業界ごとなどの会合を持ち、親睦を図ることはこれを妨げない。

第5章 会計

第13条 本会の経費は会員からの会費および寄付によって賄われる。会費は平成13年度2000円、以降は1000円とする。送金先は郵便振替『00130-1-77708 松虫会』とする。

2. 本会の会計年度は総会から次の総会の前日までとし、総会で内容を報告し、承認を得なければならない。
3. 会計は幹事のうち1名が責任を持ってこれにあたる。
4. 幹事会で推薦し、総会で承認された者が会計監査を行い、総会で報告する。

第6章 附則

第14条 本会則は平成13年11月3日より発効する。本会則の変更は総会決議による。

編集後記

昨年11月に総会を開催しましたのに会報の発行がここまで遅くなりまして、本当に申し訳ありませんでした。大学を取り巻く状況もいろいろ厳しいものがありますけど、微力なのは証明済みですが定期的に皆さんに情報を流せるよう頑張っていきたいと思います。会長、幹事の方々をはじめ皆様方のご協力をお願いいたします(野村 昌史)。